

## 八、東伊豆町の偉人

### (一) 木村恒太郎 — 伊豆のために活躍

木村恒太郎は木村恒右衛門とも言い、天保七年（一八三六年）に大川に生まれました。恒太郎の家は、大川村の村長にあたる名主を代々務める家でした。恒太郎は小さい頃から勉強ができ、十三歳の時には現在の東京である江戸に出て勉強をしました。

十九歳の時に、お父さんが亡くなったため大川に戻り、名主の役職を引き継ぎました。

明治五年（一八七二年）には、第五大区四小区（稲取り富戸までの九ヶ村）の副区長兼学区取締となり、小学校設立に努力しました。

また、明治九年（一八七六年）一月には足柄県会議員となりましたが、四月に足柄県がなくなり静岡県（現在の静岡県ではない）となると、第九大区（現在の熱海市・伊東市・下田市・賀茂郡と旧中伊豆町）の初代大区長となりました。八月には、浜松県を編入して現在の静岡県ができ、明治十二年（一八七九年）三

月には第一回静岡県会議員選挙が行われ、恒太郎は当選しました。

その間、人を育てるには高い教育が必要と考え、南伊豆の大野恒哉や山本謙吾、松崎の依田佐二平などと協力して、明治十二年には私立豆陽学校（今の下田高校）を開校させました。

また、伊豆の発展のために交通を便利にしようと、明治十五年（一八八二年）には依田佐二平と協力し、西伊豆から東伊豆をめぐる、東京とを結ぶ海運会社を作りましたが、明治十九年（一八八六年）には多くの人々に惜しまれながら亡くなりました。



中央：木村恒太郎